

道史編さん準備会 社会・文化ワーキング開催結果概要

日 時 平成30年3月23日（金）15:00～17:00

場 所 ホテルポールスター札幌 4階「アカシア」

参加者 小内純子教授、小内透教授、角准教授、林教授
 靄原首席文書専門員、中谷主幹

1 具体的な進め方

- ・分担部分の資料を集め、セレクトして資料編を作成。「社会・教育・文化」は2023年度末刊行予定。資料編作成の最後の方から並行して通史編をまとめる作業が入ってくる。
- ・資料編は、基本的に一次資料を探す作業。しかし統計資料等から引用して作成したものを、典拠を明示して入れても構わない。
- ・通史編2巻の場合、1000頁×2巻＝2000頁の3分の1が「社会・教育・文化」の分量。
- ・他分野との境界が難しい項目の仕分け案について説明
- ・通史編2巻の場合の区分は、年代別が普通。
- ・資料編の中の解題の付け方（各巻共通）は未定。ある程度まとまった部分ごとに、なぜ選んだのか解題を置いた方がよい。
- ・「社会・文化」で何を取り上げるか（各県史の目次部分を配布）。「社会」の領域は広く、地域の個性が出るところ。

2 構成と分担

小内純子先生による「社会・文化分野構成第一次案」をたたき台に検討

○人口移動、地域類型

- ・人口移動は過疎過密のところでもよい。地域類型はいらない。

○終戦直後の混乱と生活

- ・「新北海道史」に詳しいので、これをコンパクトにまとめ、それ以降に力を入れる。

○地方と都市の生活の変化

- ・「漁村の生活」は「農漁村の生活」にまとめ、漁村と農業との関わりにも言及。
- ・「炭鉱の生活」は長屋の共同体生活。資料は札幌学院大学にあり。吉岡先生（札幌国際大学）が適任。
- ・「都市の生活」は、団地、冬の生活の変化、都市と地方との地域差の拡大等

○保健・医療と福祉

- ・福祉も含め、林先生が担当

○社会運動

- ・「市民・環境・政治運動」は、範囲が広いが角先生が一括担当。書き出すと30項目以上。他分野と重なるところがあれば調整し、今から線引きする必要はなく、

落とさないようにすることが大事。同じ運動でも分野によって取り上げ方が違う。

- ・辻先生（社会教育）からも、調整させてほしいと言われている。
 - ・「障害者運動」は、いちごの会の活動など。保健医療・福祉に入れると書きやすい。「ジェンダー関係の運動」も含め林先生が担当
- ・アイヌの運動は社会運動には含めず、「アイヌの生活と文化」として別立てする。内容は小川さんに一任。
- ・「民衆史の掘り起こし運動」は、「新札幌市史」に載っていた。小池喜幸、掘る会など
- ・「北方領土返還運動」は政治に任せる。
- ・生協は多分「商業」で扱うので、生協運動として包括的には扱わない。ただし生活クラブは扱う。

○自然災害

- ・洞爺丸台風、2回の有珠山噴火、十勝岳噴火、地震、チリ津波など。資料としては、例えば被災者手記や避難の教訓。小内透先生が担当

○メディア

- ・小内純子先生が担当

○宗教

- ・櫻井先生（北大文学部）が適任

○芸術・文化・スポーツ

- ・「文学・芸術」は、北海道立文学館の学芸員、北海道立近代美術館の学芸員に頼む。
- ・北海道功労賞や文化賞の関係の刊行物が資料として使える。
- ・「芸能」は、北海道博物館の民俗学の学芸員に頼む。三味線、神楽…
- ・「娯楽・レジャー」 スキー、キャンプ、釣り、山菜採り、ジンギスカン、観楓会、海水浴など。表面的なことを並べながら、その地層に何があるか言及。小内純子先生と角先生が担当
- ・「スポーツ」は、3プロチーム、アイスホッケー、ジャンプなど。応援も含める。教育の辻先生と調整が必要。
- ・「文化行政・団体と文化財」はいらない。
- ・「漫画・アニメ」も扱うこととし、林先生が担当
- ・「映画」も扱うこととし、小内純子先生が担当。「北の映像ミュージアム」を見学、資料収集、インタビュー。
- ・「祭り」は、論文があれば寄せ集める。小内透先生が担当

○衣食住

- ・北海道独特の衣料文化、現在は平準化？
- ・機密性の高い住宅、暖房システム、こたつがない。
- ・食文化は、戦後であっても母村の影響はある。林先生が人選

以上